

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月1日

乾いた地に埋もれた根から生え出た若枝のように、この人は主の前に育った。—イザヤ53:2

その根は植物がそれによって養いを受ける手段を意味し、それを通していのちが導き込まれるのです。根がなければどんな植物も生育できません。根が備わることによって、もっとも厳しい環境においてすら生育できます。イザヤの言葉は、イエスご自身が外側の環境からそのいのちと力を導いたのではないことを示唆します。私たちも同じです。必要なときには、私たちはキリストにある兄弟姉妹の援助がなくとも生きる必要があるのです。まわりに彼らがいる時、すなわち仲間と共に 生きる際においても、私たちは彼らによって 生きるわけではありません。私たちのいのちの隠された源は神ご自身であるべきです。

しかしこのように「乾いた地」から生きることは、さらなることを意味します。それは私たちは環境によって駄目にされることはないことを意味するのです。いかなる干ばつも神の植物を枯らすことはできません。仮に実を結ばなくとも、あるいは敵に囲まれた環境においてすら、神の子供たちは「勝ち得て余りある」のです。彼らのいのちがキリストご自身であるからです。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月2日

**あなたがたを罪に陥らないように守り、また、喜びにあふれて非のうちどころのない者として、栄光に輝く御前に立たせることができる方—ユダ1:24**

ここに自分自身のいのちを神の御手に完全に明け渡した者たちに対する素晴らしい約束があります。私たちが「栄光に輝く御前」に至る旅の途上には多くの罠がありますが、主は私たちをそれらから守って下さるのです。私たちがつまづいた時にはどうでしょう？何の妨げも感じない時にも、私たちは自分の足を、何かが隠されている道の上に置くのです。この節は神の保護の恵みが、そのような時にも私たちの意識するところをはるかに超えて、働くことを保障しています。もし私たちが自分自身を何の留保もなく神に明け渡しているのであれば、私たちは未知のことを恐れる必要はありません。私たちが完全に無知である時ですら、何度も何度も神の保護が私たちをあらゆる危険から守ってくださることに驚くことでしょう。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月3日

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷／父の家を離れて／わたしが示す地に行きなさい。—創世記12:1

これはアブラムに対する二回目の召しでした。最初の召しは彼がメソポタミヤにいた時のことであり、「まだハランに住んでいなかったとき」(使徒7:2)でした。アブラムはカルデヤから出て来てはいましたが、十分に遠くまでではなかったように見えます。そこで彼がハランで過ごした日々については何らの記録もないことは峻厳な思いにさせられます。しかし神はご自身の召しを決して諦めません。私たちは時として、神がその命令を変更されるのではと期待して、ぐずぐずと事を延ばすのです。しかし神は決してそうはなさいません。神は何年も前に私たちのために用意されたゴールを決して放棄されないからです。私たちはそれを手からすり抜けさせるかもしれませんが、神はなさいません。

神の目から見るとハランはメソポタミヤから僅かに前進したに過ぎないのです。アブラムはとにかく動いたことで満足したかも知れませんが、神はその地へと彼を召したのです。すべての真の召しは高い召しです。私たちは故郷から僅か離れた地で満足してはなりません。問題は私たちが故郷からどれだけ遠く来たかではなく、私たちの心が神の目的に置かれているかどうかにあるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月4日

**わたしたちの古い自分がキリストと共に十字架につけられたのは、罪に支配された体が滅ぼされ、もはや罪の奴隷にならないためであると知っています。—ローマ6:6**

私は回心して後、何年もの間、「知る」ことを教えられてきました。しかし自分が罪に対して死んだことを認めようとすればするほど、私はますます罪に対して生きてしまうことが明らかに知るだけでした！私は自分が罪に対して死んだことを認めることができず、死を生み出す方法が分かりませんでした。人に助けを求めるといつもローマ6:11を読むように助言されました。しかしローマ6:11を読んで、自分が死んだことを認めようとすればするほど、死は私から離れ去って行きました。私はどうしても死に到達することができませんでした。その葛藤の中で主に申し上げました、「こんな基本的壕ことが分から襟いのでしたら、私はもうメッセージなどできません。私は徹底的に分かる必要があるのです」と。そして数ヶ月間追求し、祈り、時には断食もしましたが、何も起こりませんでした。

ところがある朝、決して忘れ得ぬ朝ですが、私は聖書を開いて座り、再度主に対して、「主よ、私の目を開いてください!」と申し上げた瞬間、私は自分がキリストと一つであることを見ました。私はキリストのうちにおり、よってキリストが死なれた時、私も死んだのです。私たちの古い人はキリストと共に十字架につけられました。それは私にとって何とリアルであったことでしょう！私はその喜びと共に外に飛び出して、上海の街中をその偉大な発見のニュースを叫びつつ歩き回りたいほどでした。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月5日

はっきり言うておく。世界中どこでも、福音が宣べ伝えられる所では、この人のしたことも記念として語り伝えられるだろう。—マルコ14:9

なぜ主はこのようなことを言われたのでしょうか?それは福音とはこの種の行為を生み出すものだからです。これが福音の目指すところです。福音とは単に罪人を満足させるものではありません。神を賛美します。罪人はその分を持っています。神は彼の日強いうを満たし、祝福を注ぎます。しかしこれは、いわば、福音の副産物による祝福であって、福音が本来目的とするところではありません。福音はまず第一に主が満足されるために述べられるべきです。しかし私たちは次のことを覚える必要があります。主は私たちが主のゆえに自分自身を「無駄にする」ことなしには決して満足されません。あなたはすでに主に対して十分に何かを捧げたことでしょう。しかし私は申し上げることを許して下さい。聖なる奉仕においては、無駄にされる原則は力の原則です。神の御手における有用性は、無駄になることによって測られるのです。私たちの働きはすべて主のために仕えることから湧き出すものですが、私たちの結ぶすべての実もまったく同じなのです。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月6日

彼はあなたが何するべきか告げて下さるでしょう—ルツ記3:4

すべてのイスラエル人はヨシヤの時代から主の再臨まで、自分の家系を記録しておくのです。これによってヨベルの年に失っていた嗣業を取り戻すことができるのです。しかし嗣業の所有権は、元所有者が継承者をもっていたことの証拠を必要とします。よって、律法ではある男が息子を残さず妻を残して死んだ場合、近い親戚が彼女を妻とし、その家系を継続する必要があるのです。ナオミの場合はそれよりもはるかに悪い条件でした。未亡人とされた彼女は子供を生むにも歳を取りすぎているのです。彼女が夫を得たにしても、どうして嗣業を回復することができましょう？彼女の嫁のルツはそれを願いましたが、彼女は異邦の女でした。近い親戚のボアズのみが彼女を助けることができます。彼は異邦人を贖うでしょうか？ルツの必要は単に彼女の土地を買うことによって満たされることはないのです。彼女は彼と結婚する必要があるのです。彼女は自分自身をボアズに捧げる必要があるのです。

私たちが自分自身を神に捧げることなくしては、贖いは意味なく、虚しいものです。ボアズはルツを褒め、正しく対応しました。なぜなら若い男としての関心からではなく、律法を満たすために彼女に応えたのであり、さらには彼女の子孫たちを見るならば、彼女のその献身が実際的に報われていることが分かるでしょう。神への献身は豊かな配当を生み出すのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月7日

わたしは、あなたの苦難や貧しさを知っている。だが、本当はあなたは豊かなのだ。  
—黙示録2:9

今日、周囲を見回すとき、あまりにも多くのクリスチャンがその経験において悲劇的な欠乏状態にあることを知って、悲しまざるを得ません。彼らの生活には、あまりにも豊かさが欠如しているのです。彼らは自分自身の必要の満たしにも事欠き、いわんや他人のために備える事など及びもつきません。どうしてそんなにも貧困なのでしょう？それは彼らが、自分たちを導く聖霊の管理に関して、無知であるからでしょうか？詩篇の作者は書いています「圧迫にあつて、あなたは私を上げて下さいました(詩篇4:1;ダービー訳)。今日の一時的な貧困は永遠の富のためです。神はその圧迫と貧困が何も生み出さないことを意図されていません。神のご目的は、すべての圧迫は私たちの度量を広げるためであり、すべての貧困は私たちを富かさへともたらすことなのです。ご自身の民に対する神の御心は耐えざるストレスでもなければ、打ち続く貧困でもないのです。これら自体が目的なのでは決してなく、神の目的のための単なる手段に過ぎないのです。圧迫は度量の拡大への通路であり、貧困は豊かさへの通路なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月8日

また、わたしに言われた。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。初めであり、終わりである。渴いている者には、命の水の泉から価なしに飲ませよう。—黙示録21:6

「事は成就した」ようやく神の永遠のご目的は成就しました。どのようにしてなされたのでしょうか？ どうして御言葉は、その成就をこれほどの確信と共に証しているのでしょうか？ それは主がアルファであり、オメガである方だからです。神は御業を開始されました。そして神はそれを完成されます。神はご自分の御手によって始められた事を完成し得ないような方ではありません。なぜならそれが神の御性質だからです。神は初めであるばかりでなく、また終わりです。ハレルヤ！ 私たちの神はアルファであると共にオメガでもあります。これによって神が私たちの内で始められた業が未完成のままに終る事はないことを確信するのです。神は人の無能力のためやサタンの敵対によって立ち止まる方ではありません。罪は確かに私たちには力を持ちますが、神に対しては何らの力もありません。主の御名は、それはまた神の御性質でもあります。神がすでに完成された地点から、私たちの内での御業をご覧になっていることの保証なのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想



荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月9日

わたしは、既にそれを得たというわけではなく、既に完全な者となっているわけでもありません。何とかして捕らえようと努めているのです。自分がキリスト・イエスに捕らえられているからです。—ピリピ3:12

私たちの主のように多くの僕を持つ主人は他におりません。そして各人に対して主は最も適切な配剤をなさいます。最も小さいメイドですら、ナアマンが癒しの必要のあった時、証しをするために用いられました。私たちの多くは神が与えられた立場に対してつぶやきます。私たちはこのことを願いますが、神はあのことへと導きます。私たちはここで主に仕える野心を持ちますが、神の計画は別の場所に遣わすことです。そのような明らかな相違が分かったならば、神の計画は私たちが救われる前から定められていたことを思い出すと良いでしょう。なぜなら神の予知は、私たちが生まれる前から私たちの環境を用意されたからです。神は決して突発的に何かをされるのではなく、長い長い時間をかけて用意されるのです。よって神の招命においては、何もつぶやく必要はなく、高ぶることもないのです。誰かを嫉妬する必要もないのです。なぜなら彼らの長所は私とは何らの関わりもないからです。私たちが自分の人生を振り返るならば、あらゆる事が神によって配剤されていた事を知って、神を拝することでしょう。ですから自分が何かを失敗することを恐れる必要もないのです。このことを真に確信するならば、まことの安息です。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月10日

見よ、わたしが生きるのだからあなたがたも生きるのだ。—ヨハネ14:19

ヨハネの福音書はそのどこを見ても、彼が終わりの時代のためにそれを書いたことが明らかです。彼の重荷は永遠のいのちであり、そのためにあなたが神と正しい関係を保つことです。あなたがそこに戻るのであれば、他のすべての事柄は備えられるのです。彼の関心は外見的な、過ぎ去る事柄ではなく、あなたがそれらのものをすべて後にして、ただいのちに集中することです。今のあらゆる事柄は絶望かも知れません。「天から下る」いのちへと戻りなさい。そうすれば、失うことを恐れていた事柄も保たれるのです。ある意味で、ヨハネは他の新訳聖書の著者たちが提示していない新しい何かを私たちに提供しているわけではありません。ヨハネは私たちを先へと進ませるわけではありません。なぜなら最も深い事柄は神によってすでに触れられているからです。ヨハネに委ねられた啓示の目的は、人々をその当初の目的へと、再度引き戻すことでした。すなわち復活の主との新鮮な触れ合いへと人々を回復するのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月11日

*彼女は言った。「栄光はイスラエルを去った。神の箱が奪われた。」—1サムエル4:22*

契約の箱は奪われました。しかし契約の箱は自分自身を守ることができるのです。それを奪ったことは、代価を払うことになることを彼らは学びました。なぜなら、それはそもそも神のご性質の証しなのであり、聖くないイスラエルがなし得なかったことを、神の箱はペリシテ人に対してなし得たのです。神はご自身の栄光の手段を探されます。もし見つからなかったならば、神ご自身が御業をなされます。そしてご自身の証しを守られるのです。ご自身の民に聖くない要素があるために、神ご自身が貶められるようなことがあり得ないことを全世界に知らしめるために、神は契約の箱が奪われる事態を許されます。神の御性質と人の聖くない性質は、たとえ神の契約の民においてすら、決して伴い行くことはあり得ないのです。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月12日

わたしはあなたに天の国の鍵をさずける-マタイ16:19

何がペテロを神の代弁者として、最初にユダヤ人に対する福音のドアを開き、次に異邦人へと向かわしめたのでしょうか？それは明らかに、彼が人々に語る前にまず神によって語られていたことです。なぜなら、それは彼が天の国の鍵を用いることができるようになる前に、まず彼自身に対する天の国の必要を知り得たからです。

「国」とは何を意味するのでしょうか。それは王の領域であり、その権威の及ぶ範囲です。このことのすぐ後に、変貌の山においてペテロは、主ご自身と共に、モーセとエリアにも小屋を作ろうと言う素晴らしい提案をします。しかし主の御国ではそれは許されません！権威はただひとつだけだからです。ただひとつの御声があるのです。この学課を学ばせるために、まだ「ペテロが語っている間」に御父が介入され、ペテロを戒め、天の国ではただひとりの王の言葉にすべてはかかっていること、また私たちがその御言葉にのみ注意を払うことを指摘されたのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月13日

先生はただおひとりである-マタイ23:8

すべてのクリスチャンは“弟子”であるとは、その定義によって、彼らが学ぶ人であり、それぞれその状態にとどまる必要があるのです。他人に対して“教師”となることは、自分自身の領分を越えることであり、単純な聖徒の思いの中において問題を生み出すだけです。私たちが何かを知っていると誇ることは一種の越権であり、それは過信から生じるのであり、あらゆる神の働きの扉を閉めてしまうのです。あなたは「私は知りません、神が見せて下さっていませんから」と喜んで語るべきです。偉大なる知識を語るのであれば、ただちに批判を招くことでしょう。しかし人々は次のように語る者に対してはけっして心を頑なにすることはありません。「もしあなたが私に何か語ることがあるのなら、私は喜んで聞きましょう。私自身もまた主の弟子だからです」と。ヤコブは言っています、「兄弟たちよ、多くの者が教師となるべきではありません」と。よって私が今ここで助言すべきことは、十分に長い期間、学ぶ者としてとどまったほうがよいと言うことです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月14日

実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し—エペソ2:14

七重のコードのように、御霊の結合によって全世界の信者は結び合わされています。しかし、彼らが内なる御霊の臨在による生き生きとしたひとつを得ており、何者も彼らを分かちことはできないとは言え、逆の要素が彼らの性格と環境に存在します。私たちのひとつは、その真理の理解に基づくのではなく、またそのひとつに逆らうすべての要因から自分を引き離すことによるのでもありません。それはただキリストにあって私たちが真にひとつであるという事実<sup>1</sup>に安息することです。それはキリストの十字架によってもたらされたものであり、内住の御霊によって私たちの実際<sup>2</sup>の経験とされるのです。それ以外の根拠はあり得ないのです。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月15日

ハンナは祈って言った。「主にあってわたしの心は喜び・・・」－1サムエル2:1

自然の感覚から言えば、この瞬間はハンナの人生においてもっとも悲しむべき瞬間でした。なぜなら彼女は息子にさよならをしていたからです。しかしここには何らの悲しみも自己憐憫の痕跡也没有せん。むしろ主に対して自分のすべてを明け渡し、捧げた者に訪れるユニークな喜びのあふれ出る心の表現が見られるのです。ハンナにあっては、主の関心事のために自分の魂を用いること、また彼女の人生における最も親密な事柄は、主の関心事のために捧げることであるかのようでした。サムエルが生まれる前に、ハンナは主に請願を立てていました。彼が幼かった日々において、彼女はこの日を待っていたのです。彼女はサムエルを乳離れさせました。そして今、時が訪れ、彼は主に戻され、彼女はかつて経験したことのない喜びで満ち溢れたのです。それは完全に主に明け渡すことの喜びでした。彼女の歌は、何世紀も後にマリアがそれから啓発を受けたのですが、彼女が得た勝利の喜びを表しているのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月16日

どうぞおことばどおりこの身になりますようにールカ1:38

神のご計画の成就のためにその言葉を送ったのであれば、処女マリヤの中で生ける神の言葉が自由にその道を見出すために、彼女のこの祈りは何と本質的なものだったでしょうか。神は語られました、そして彼女は信仰によって応答しました。すると神の奇跡が起きたのです。ああ、私たちはこの点で何と愚かであるでしょう。多くの人々が、自分はオーソドックスな教義を信奉し、真理の言葉に単なる知的な同意をするだけで十分であると考えているのです。しかしその真理が内的な働きをすることなくしては、その事に同意しようと不同意であろうと、大差がないのです。その差は真理が躍動的にして変化させるいのちの効果をもたらすときに生じるのです。虚しい聖書の知識を所有しても、内的なその働きの経験が乏しければ、それは何と言う悲劇でしょう。私たちが神の目的のために有意な者とされるためには、今この時、きわめて個人的に語られる神の言葉に対して、単に頭で応答するのではなく、心からの応答をすることが本質です。私たちはマリヤの祈りを唱和できるでしょうか？

ウォッチマン・ニーによる霊想



荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月17日

わたしが仕え、礼拝している神—使徒27:23

私自身はすでに私のものではなく、神のものであることを知ることは偉大な経験です。私のポケットにお金を所有していれば、私はその上に完全なる支配権を行使できます。しかしそれが他人のものであり、ただ私に信託されているだけでしたら、私は好きなものを買う事もできませんし、それを失うことも許されません。もし私たちがすべては主に属するものであることを知っていたならば、私たちの時間やお金や才能を自分の望むままに浪費することができるでしょうか？ 私たちの中の何人の人々が、自分のお金を一ドルたりとも、また時間や精神的肉体的能力をムダにすることのないような強い感覚を覚えるほどに、自分が主のものであることを知っているでしょうか？ 私たちは自分自身に対して生きているのではなく、神に対して生きているのです。真のクリスチャン生活はこのことを知ることから開始されます。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月18日

だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。－ローマ15:7

教会における異なった意見に関するこの節は、「神が彼を受け入れた」(14:3)という言葉に始まり、「キリストがわたしたちを受け入れて下さった」(15:7欄外注)で終わります。ここに私たちの互いの関係の単純な原則が示されています。それは彼らがキリストに属していると同時に、私たちも属しています。それで十分です。ところが、しばしば私たちは会って話しているうちに、互いの相違点についての議論に落ち込むのです。共に共有している主にとどまる代わりに、互いの相違点について、否定的な注意を注ぎ、何が正しく、何が間違っているかを延々と論じ始めるのです。私たちの前のこの節には多大な相違が見られますが、パウロは誰が正しいとは結論していません。なぜならパウロが注意を払うのはクリスチャンの交わりであり、人の見解や意見の正否についてではないからです。問題は私が信じているのとまったく同じことを他の人が信じるか否かでもなく、私の経験と彼の経験がまったく一致するか否かでもありません。唯一の問題は、神が彼を受け入れたか否か?もし神が受け入れたのであれば、私もまた彼を受け入れるのです。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月19日

律法によらなければ、わたしは罪を知らなかったでしょう。たとえば、律法が「むさぼるな」と言わなかったら、わたしはむさぼりを知らなかったでしょう。－ローマ7:7

神は私と言う存在を知っておられます。神は私が頭のとっぺんから足のつま先まで罪にまみれていることをご存知です。神をお喜ばせすることにおいては、私が完全なる弱さの受肉であり、私が何もし得ないことをご存知です。問題は私自身がそれに気がついていないことです。私はすべての人が罪人であることを認めるゆえに、私も罪人であることを認めます。しかし私は自分が他の人々ほどには罪人ではないように感じるのです。私は自分が弱いことに同意しますが、それを完全には信じないのです。そこで神は何かを用いてその事実を私に確信させます。それが律法を与えられた理由です。それによって私が律法を守ろうとすればするほど、私は失敗を重ねることが露わにされるのです。パウロを自分自身を知ったのは律法によってでした。すなわち「むさぼるな」と始まる掟でした。他の律法の定めについての彼の経験がいかなるものであれ、それは第十番目の掟であり、正確にはこう書かれています:「あなたは・・・欲してはならない」。この掟が彼自身を露わにしたのです。この掟がパウロを聖なる神と面と面で対峙することに導いたのでした。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月20日

罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。－ローマ8:3-4

御霊に従って歩むとはどのような意味でしょうか?それはふたつのことを意味します。ひとつは、それは労働ではなく、単純に歩むことです。神を賛美します、今や、神をお喜びさせるために「肉に従」って生きる際の重く不毛な努力から、穏やかで安息に満ちた「内なる全能の御業」に対する依存へと移されたのです。それゆえに、パウロはガラテヤ書で肉の働きと、御霊の実を対比しているのです。

第二に、「・・・に従う」ことは、ついていくことです。それは服することです。そもそも主が先導者であるのではないですか?御霊に従うことはあらゆる事柄で御霊に委ねることです。したがって私たちの生の主導権はすべて御霊にあるはずで、御霊に従う人にとっては何も不可能なことはなく、それが彼らの前に広がる行程なのです!

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月21日

忍耐した人たちは幸せだと、わたしたちは思います。－ヤコブ5:11

神が人を取り扱うために、御手の中にその人を得るとき、彼を明確な状態にもたらしことなしに放置されることはありません。ヨブを取り扱われた時、神は文字通り完璧に事を完成されました。神は最初ヨブの家畜がすべて失われることを許されました。すると彼の家畜はすべて炎に失われました。次に彼の息子たちと娘たちが死にました。その時に至るまで、彼は自己弁護を続け、「頭のでっぺんからつま先まで悲嘆の熱湯」をかぶっていたのです。しかし、彼が神に対して完全に明け渡す日が訪れました。ヨブの自己弁護は沈黙せられ、神ご自身が自由に語ることのできる時が来たのです。すると彼の試みは究極的勝利に終わりました。ヤコブはこのことについて、「主の終わり」と表現しています。ここで重要なのは、私たちの経験する試みの数ではなく、それらを通して神のゴールに到達することなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月22日

だれかが、一ミリオン行くように強いるなら、一緒に二ミリオン行きなさい。-マタイ5:21

中国南部にひとりの兄弟がおり、彼は丘の上に水田を持っていました。乾季には石臼と連動している水車を使って、水を下の小川から汲み上げていました。ところが彼の隣人が彼の二段下の方に水田を持っていて、ある晩、その兄弟の田のあぜを崩して裂け目を作り、彼の田の水を抜いてしまいました。彼がその裂け目を直し、水を汲み上げると、再びその隣人が同じ事をなし、これが何度も繰り返されました。そこで彼は知り合いの兄弟たちに相談しました。「おれは忍耐して、仕返ししないように努めたんだが、これは正しいよな」と。彼らが共に祈ると、ひとりが気がつきました。「おれたちが正しいことをするだけなら、おれたちは貧しいクリスチャンだ。おれたちは正しい事以上の事をすべきじゃないのか」と。その兄弟は非常に感銘を受け、翌朝、二段下の田にも水を汲み入れ、午後自分の田に水を満たしました。彼の隣人はその行為にひじょうに驚いて、その理由を探し始めました。当然のことながら、その過程において、彼はキリストを見い出したのです。「正しいか、間違っているか」という基準は異邦人のものであり、収税人の価値観です(46節)。そうではなく、私たちの生活は、主に従っているかどうか、で量られるべきなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月23日

私たちは生きるにしても、死ぬにしても、主のものである。-ローマ14:8

いわゆるキリスト教の技術的な事柄を強調してはなりません。むしろ私たちがキリストのものであり、私たちが何をやるにしても、すべてはキリストのため、という最も基本的な真理に注意を払い続けるべきです。私たちは「主へと(onto the Lord)」生きる者であり、「主へと(onto the Lord)」死ぬ者たちなのです。私たちは私たちと異なった考え方、あるいは生き方をしている人々を説得しようとするべきではありません。私たちの目的はただ彼らをキリストとのさらなる親密さへと導くことです。私たちは外見的な正しさ、あるいはある種の善行によって生きるのではなく、神ご自身との親密さによって生きるのです。兄弟たちを自分と異なった意見を持つ者として裁いたことがありますか?そうではなく、私たちの関心事は、私がまた彼が、ただ主のために何かをなすことであるべきです。ただそのことだけが私たちの目標であるならば、私たち間にいかなる相違があろうとも、全ての事がうまく整うのです。キリスト者信仰の核心はイエス・キリストの頭首権がすべてです。真理にあって、イエスがあなたの主であり、私の主であるならば、主ご自身が他の事柄を整えて下さるのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月24日

わたしたちは、四方から苦しめられても行き詰まらず、途方に暮れても失望せず—2コ  
リント4:8

救いを得てからこの方、私のただひとつの純粋な願いは、真のクリスチャンとなることです。もちろん私は私なりのクリスチャンの理想像を持っており、そのようなクリスチャンになるために最善を尽くもしました。私が考えていた理想のクリスチャンとは、朝から晩まで笑顔を絶やさない人だったのです!もし涙でも流したのなら、ただちに勝利を失うのでした。また絶えず勇敢でなくてはなりません。もし僅かでも恐れをいただくならば、それは直ちに主に信頼していない深刻な事態を意味するのです。かくして、私はそのような理想像からははるかに外れた者だったのです。

しかし、まもなく、クリスチャン生活とは決してそのようなものではないことを学びました。それは、弱さにあつての力、痛みにあつての喜び、疑いにあつての信仰の勝利、と言うパラドックス的経験です。クリスチャンが主にあつて最も力強いと思う時には、しばしば彼は力の欠如を覚えるのです。また勇敢であると感じる時に、実は自分の内なる恐れを感知するのです。また最も喜びに満ちると思われる時、何か虚しい感覚が再び忍び込んでくるのです。しかるに、彼を引き上げることができるのは、「この並外れて偉大な神の力」のみなのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想



荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月25日

隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる。－マタイ6:6

私たちの業に対して、人々の注意を引こうと、何か策を講じる必要はありません。その峻厳なる摂理の中におられる神ご自身が、その責任を自ら負って下さるのです。私たちは人生において神に頼るだけですが、どうしてそのことを人々に知らせる必要があるのでしょうか。私は神の僕たちが、自分たちが信仰によって生きていることを強調する度に、何か拒絶感を覚えるのです。私たちは果たして真に神の法則と神の摂理を信じているのでしょうか？もし信じているならば、私たちは、神ご自身が僕たちに対して私たちの必要を知らせて下さると、神に信頼することができるでしょう。そして私たちがあえて声を上げなくても、彼らがその必要を満たして下さるように神が命じられることでしょう。もし私たちに個人的な収入があることを、私たちの生活振りから人々が知って、それゆえに彼らが捧げ物を控えるようになるとしても、私たちは何も気を揉む必要はありません。私は若い同労の兄弟たちに、個人的な収入のことばかりでなく、神に対する信仰についても沈黙を守るように勧めます。それは、そのことによって、神ご自身をより証することができるためです。もし私たちに真に信仰があるならば、それについて語ることはより少なくなるはずで

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月26日

しかし、彼らをつまづかせないようにしよう。湖に行って釣りをしなさい。最初に釣れた魚を取って口を開けると、銀貨が一枚見つかるはずだ。それを取って、わたしとあなたの分として納めなさいーマタイ17:27

この慈しみに満ちた奇跡はペテロに対する喩えとして語られています。実は、私やあなたにとってもです。ある人はこの奇跡は主がご自身のためになされた唯一の奇跡であると指摘しています。確かにそうですが、しかし半分は主ご自身のためですが、半分はペテロのためでした。そして私もあなたも、次の言葉を付け加えてよいのですー「私のために」と。このたった一つの銀貨は、それによって宮の奉納金二人分が恵みによって充足されたのですが、僕とその主人とのきわめて親密なすばらしい結びつきを見ることができます。

では奇跡の魚については?それは私たちが神の御旨について正しい基礎の上に立つならば、その必要が神ご自身によって備えられることを保証しているのではないのでしょうか。いつでも愛が義務に勝るときは、神がその必要を満たしてくださることを期待することができるのです。

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月27日

家は香油の香りでいっぱいになった。- ヨハネ12:3

主のために壺を割ることによって、ベタニヤのその家には甘い香が満ちました。すべての人がその素晴らしい意味を味わうために解き放たれたのですが、それに気づいた人はいませんでした。この話の重要性は何なのでしょう？

あなたはこれまできわめて深い苦しみを経て、ただ主ご自身によってのみ満足を得るような状態にまで導かれた人と出会ったことがあるでしょうか？その時にはただちに何かを感知する事ができるでしょう。ただちにあなたの霊的感性はある香を感知するのです。パウロが言った「キリストの甘き香」です。その人の人生において、神ご自身の内にある何かを解き放つために、何かが砕かれてしまったのです。それは必ずあなたに感知されるのです。そうです、その日ベタニヤの家を満たしたその香は、今日教会を満たすべきです。マリヤの香は決して消え去りません。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月28日

肉に従ってキリストを知っていたとしても、今はもうそのように知ろうとはしません。-2コ  
リント5:16

「週の初めの日、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリアは墓に行った。そして、墓から石が取りのけてあるのを見た」しかしマリアにとって墓が空である事を確認するだけでは不足でした。彼女は主の御体を見たかったのです。「主がどこに置かれているのかわかりません!」と彼女は御使いたちに叫びました。そして振り返ると、そこには慣れ親しんだ主がおられたのですが、彼女は誰なのか分からなかったのです。もしあなたが神聖な啓示の必要性を疑うのでしたら、このことを熟慮すべきです!

ここに重要な原則があります。“肉に従った”キリストはすでに十字架につけられたのです。主をこのように知ることは、虚しい死体を捜すだけのことになります。マリアはそのように主を探したのですが、そこに立たれた主を認めることができなかったのです。彼女の感覚器官が変わっていたのでしょうか。違います、主ご自身が偉大な御力によって復活し、その栄光へと入っておられたのです。主ご自身が変化されたのですから、主を知る知り方も変わる必要があるのです。ただ主が語られることによるのみ、彼女は主を知ることができました。そしてすべての啓示はこのようにして与えられるのです。このような内的な明らかな認知について、人間の用語で説明することはできません。あなたはただ知るのです。そしてそれで十分です。

マリアは泣きました。死体を探すことによって、彼女は主を認め損なったのです。私たちは取り除かれるべき多くの何かを有しています。私たちはある時完全に行き詰ります。何らの脱出口もないかのような状況です。しかしその時こそ、親密な御声を聞くのです。「マリアよ」と。するとその瞬間に失ったと思い込んでいたそのお方を見出すのです!

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月29日

それで、イエスは神の右に上げられ、約束された聖霊を御父から受けて注いでくださいました。-使徒2:33

私たちは仕えるためにどのようにして御霊を得ることができるでしょう。そのために労苦するのでしょうか。神に嘆願するのでしょうか。断食と自己否定によって魂を痛めつけるのでしょうか。違います! これは聖書の教えではありません。もう一度考えてみてください: 罪の赦しはどのようにして得ましたか。パウロは、それは神の豊かな恵みの故であると語ります。そしてその恵みは「愛する御子にあつて無代価に私たちに与えられた」と告げるのです。私たちはそれに関しては何の分もありません。私たちはただキリストの血によって贖われたのであり、それはキリストがなされた事に基づくだけです。では聖霊の傾注に関しては御言葉は何と語るのでしょうか。それは主イエスの高举に基づくのです。イエスはカルバリの十字架で死なれたゆえに、私たちは赦されました; 主は御座に上げられたゆえに、私は高き所からの力と共に御霊を得たのです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月30日

「誇る者は主を誇れ」と書いてあるとおりにするためです。－1コリント1:31

パウロはどこかで「律法の下からキリストへ」と語っています。これは私とあなたにとって、律法を守る努力することを言っているのではありません。なぜならすでにそれは終わっていることを知っているからです！そうではなく、律法を守るために、キリストの力が私たちの内に働くことを求めることであり、それは自分で行うのとはまったく異なる経験なのです。しかしそのような主に対する依存こそが、私たちの内に非常に深い遜りを生み出します。確かに、私たちの内に働くあらゆる神の恵みは、私たちなそのような遜りの状態に保ちます。私たちが何か自分の達成を誇るのであれば、それは私たち自身の努力の成果であることを証明しています。私たちは自分で達成していない事には決して誇りを覚えることはないからです！御業をなした者こそが栄光を受けるべきです。神がすべての栄光を受けるにふさわしいのです。なぜなら、あらゆる事を神ご自身がなさりたいからです。私たちがなすべきは、ただ私たちの内で神がなされることを楽しみ、神に対してすべての賛美を帰することだけです。

ウォッチマン・ニーによる霊想

荒野に宴をもうけ(3月)

# ＝荒野に宴をもうけ＝

ウォッチマン・ニー

3月31日

かつて書かれた事柄は、すべてわたしたちを教え導くためのものです。－ローマ15:4

クリスチャン信仰は単に訓戒の上のみではなく、具体的例証の上に建てられるものです。神が私たちを教えるひとつの方法は歴史です。歴史は人々が神の意志を、いかにまたどのようになしたかを語り、彼らの生き方を観ることにより、それは単に彼らに対する神の御心を見るだけでなく、私たち自身も神の意志をどのように行うかを見ることができるのです。彼らに対する神の御手は彼らの内に神の願いを起こさせます。神は私たちがそれを記録するように求められます。それは私たちが内なる神の配剤をより深く理解するためです。

子供たちには物事をいかにすかを明確に語り告げる必要がないでしょうか？ひとつひとつの禁止事項や許可事項をはっきりさせる必要はないでしょうか？子供たちは親の個々の行動から多くの事柄を学ぶことができるのではないのでしょうか？私たちは聞いた事よりも、見た事から、あるいは私たちの内に明確に印象付けられた事から、より多くを学ぶことができます。なぜなら訓戒は抽象的であるのに対して、例証はそれ自身が多くの明らかな意味を表現するからです。原則的に神の方法は聖書時代と今日とで変わっていません。神は旧約においても新約においても多くの歴史を示されます。それは私たちが聖句にあって忍耐と慰めを受け、また希望を持つためです。